

# コロナ検査と保健所職員

こだま  
みゆる  
兒玉 稔

新型コロナPCR検査、その実施数少きに留まれるは、高熱（三七度五分）連続四日ある者に限りて検査すべしとの指導を、政府がすればなりとの論あり。加藤厚労大臣「それ目安に過ぎず。条件と解するは誤解なり」と應ぜり。メディアこの大臣發言を問題視す。「誤解せる側に問題ありと言はむばかりならずや。」と社説に書く有力新聞もあり。

事實、ネットにて見る政府文書（二月十七日付事務聯絡）添付メモには「目安」の語あるを認む。とは言ひ條、「誤解」蔓延するを知りつゝ放置し、自らには責任無きが如く發言する大臣、よろしからず。

一方、小生は「誤解」せる側にも大なる責任ありとす。四日に不足するを以て検査拒絶せらるる患者頻出との報道に接するに、保健所は、我等普段の生活に馴染薄くして知らざりしも、「住民の健康」を第一命題にせざること明らかになりぬ。

即ち、検査切望する患者に對して、政府目安四日を「条件」として拒絶する、これ保健所職員の説明として頗る安易にして、便利なるべし。本來は、國民の健康を眞に尊重し、不安心配の除去を優先して考ふるならば面倒なれども、高熱四日に滿たざる者も必要次第にて検査せしむるべし。まして、文書（メモ）には「目安」の語、確としてあり。四日を金科玉條の如く振り翳すこと無く字義通り「目安」として運用し、「目安」の範圍は患者症狀によりて自らの裁量にて對處すべきなりき。

裁量の結果、要検査数増加して膨大となり、検査機關その處理不可能とならば、然なる事情を率直に天下に示し、對處策を構ずべかりしものを。また、彼らが要検査数を抑制せし故に、大學その他の民間機關に検査を分擔せしむべしとの壓力必ずしも強まらず、これ今尙、検査實施数不十分の一因なり。更に、要検査数大きかりせば、病床の著しき不足いち早く露はになり、簡易隔離施設増設等の對處策實現機運、早期に醸成すべかりしものを。

斯く考ふるに、保健所の「誤解」、罪深しと言はざるべからず。否、その實は誤解にあらずして、問合せ應對を便利にせむが爲、目安なる語を無視して、自分らには判斷の餘地無きが如き誤解を粧ひ、「曲解」したるにあらずや。或は、これで、先に流行せる語「忖度」にあらずや。

一般に、メディアや一部評論家は官僚機構内における忖度の害を言ふ時、現場をして忖度せしむる政府や官僚上層部を惡し様に言ふ。さはさりながら、忖度する側の責任、又は狡猾を言はざるは片手落ちと言ふべし。

高熱四日を目安とする指示文書を受けながら、検査能力不足、病床缺如を隠蔽したき事情これ政府に有るに配慮、忖度して（又は、自らの便利のため故意に「誤解」して）運用する保健所は、基本的職務（住民の健康保持増進）に不忠實として責めらるるも已むなし。所員等、殺到する相談問合せの應對に奮闘して著しく消耗すと聞く。されば尙のこと要検査数をありのままに把握して報告し、事態尋常ならざるを各方面に知らしめ、然るべき緊急對處策を促す一助とすべかりしものを。「故意の誤解」「忖度」許さるべからず。

或は、假にも政府と保健所が共謀して、局外者が目にし得る事務聯絡には敢へて「目安」と書き、その實はハードルとして運用するを雙方内々に了解すてふことあらば、論外のことなり。萬一、然なる

企みありて、表向きの文書に據らずして祕かに四日未滿者を拒絶せよとの指示を上層部が發するとしても、文書そのものの記載が四日なるを武器に取りてそれに反論、闘つて自らの裁量にて検査可否を決めてこそ、住民の健康を預る保健所の誇りを全うすると言ふべけれ。

全國の保健所には斯る闘ひを試みたる職員必ずあるものと信ず。その闘ひが功を奏し得ざる時は、所員の良心を壓し潰す組織、上司連があるに相違なく、その者らこそ憎むべけれ。

（令和二年五月二十五日受附）